

令和元年度食育推進一校一実践 参考事例 掲載学校

	掲載学校	ページ
1	中央市立田富小学校	1～2
2	韮崎市立韮崎西中学校	3～4
3	甲斐市立玉幡小学校	5～7
4	南アルプス市立白根巨摩中学校	8～10
5	甲府市立貢川小学校	11～12
6	笛吹市立芦川小学校	13～14
7	早川町立早川南小学校	15～16
8	富士吉田市立下吉田東小学校	17～18
9	富士吉田市立吉田中学校	19～20

令和元年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	中央市立田富小学校	校 長 名	藤巻 稔
-------	-----------	-------	------

児童生徒の課題

給食では、嫌いなものや苦手なものも頑張って食べようとする児童や給食を作ってくれている調理員さんへ感謝の気持ちを持って食べている児童が多い。その反面、嫌いなものが入った料理は全く食べない、本当に少しだけ食べるという児童もいる。このような傾向は、特に低学年や外国籍の児童に目立つ。好き嫌いせずにバランスよく食べることの利点を知り、食の幅を広げ、微量栄養素を含めた様々な栄養をとってほしいと考える。また、作っている調理員さんへ感謝の気持ちをもって、残さず食べるようになっていくと良い。

実 践 名	好き嫌いをなくそう
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・給食で苦手なもの、嫌いなものを1つでも完食する。 ・体は、食べたものから作られていることが分かる。 ・給食を作っている調理員さんへ感謝の気持ちを表す。
目標指標と数値	<ul style="list-style-type: none"> ・給食で苦手なもの、嫌いなもの1つでも完食する。(90%) ・体は、食べたものから作られていることが分かる。(85%) ・給食を作っている調理員さんへ感謝の気持ちを表す。(100%)
実施予定日 ・実施予定期間	令和元年7月～令和2年2月
対 象	全校
指導場面	学級活動、特別活動、給食時間 等
指 導 者	担任、給食主任、栄養教諭
具 体 的 な 内 容	
<ul style="list-style-type: none"> ・実践前と実践後のアンケートによる、児童の実態把握と変容の見取り ・紙芝居「にがてなたべものにチャレンジ」を使った指導 ・3つの食品群の働きと仲間分け ・食べたものが体を作っていることのお話 絵本「ぐんぐんせがのびるひみつ」 ・調理員さんと一緒に給食試食 ・給食委員会による毎日の給食の放送・教室訪問・テレビ放送 	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・給食で苦手なもの、嫌いなものが1つでも完食できたか。 ・体は、食べたものから作られていることが分かったか。 ・給食を作っている調理員さんへ「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつや、感謝の気持ちを伝えたか。

令和元年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	中央市立田富小学校	校 長 名	藤巻 稔
-------	-----------	-------	------

実 践 名	好き嫌いをなくそう
目 標	<ul style="list-style-type: none"> 給食で苦手なもの、嫌いなものを1つでも完食する。 体は、食べたものから作られていることが分かる。 給食を作っている調理員さんへ感謝の気持ちを表す。
目標指標・数値	<ul style="list-style-type: none"> 給食で苦手なもの、嫌いなものを1つでも完食する。(90%) 体は、食べたものから作られていることが分かる。(85%) 給食を作っている調理員さんへ感謝の気持ちを表す。(100%)
実践後の数値 (評価方法)	<ul style="list-style-type: none"> 給食で苦手なもの、嫌いなものを1つでも完食する。→92.4% 体は、食べたものから作られていることが分かる。→96.3% 給食を作っている調理員さんへ感謝の気持ちを表す。→94.6%
実施日・実施期間	令和元年7月～令和2年2月
対 象	全校【紙芝居：1年生 絵本：2・3年生 資料・クイズ：4～6年生】
指導場面	学級活動，特別活動，給食時間 等
指 導 者	担任，給食主任，栄養教諭
具 体 的 な 内 容	
<ul style="list-style-type: none"> 工夫して苦手な食べ物にも挑戦する意欲を育てることを目的とし、紙芝居「にがてなたべものにチャレンジ」を1週間読み聞かせした。(1年生) 食べたものから体が作られていることが分かるように、絵本「ぐんぐんせがのびるひみつ」を読み聞かせした。(2・3年生) 成長するために必要な栄養素が分かるように、資料「成長期に必要な栄養のお話」を使った指導を行った。(4～6年生) 給食委員会による毎日の放送・教室訪問・テレビ放送など継続的な指導を行った。 1年生に対して、3つの食品群の働きと仲間分けについての授業を行った。 アンケートを取って、実践前と実践後の変容を見取った。 	
成 果	<p>昨年度，食べたものから体が作られることへの理解が79.9%だったので，今年度は絵本や資料を使って重点的に指導した。それにより16.4%増加した。体を作る栄養が様々にあることから食の大切さを子どもたちなりに捉えることができていた。また，どんな食品にどんな栄養素が含まれているか知ることにより，食べるときに意識する児童が増えた。苦手な食べものを鼻をつまんで食べたり，別のものと一緒に食べたりと，工夫して挑戦する児童も以前より増えた。</p>
今後の課題	<p>今年度は調理員さんへ，感謝の気持ちをもって給食を食べる児童の割合が昨年度より減少してしまった。1学期末で給食センターの給食に移行となり，調理員さんの顔が見えにくくなってしまったことが原因の一つと考えられる。センターや調理員さんの様子を伝える取り組みを取り入れたい。</p>

令和元年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	蕪崎市立蕪崎西中学校	校 長 名	秋澤 英俊
-------	------------	-------	-------

児童生徒の課題

本年度特別支援学級は、知的障害学級（たんぼぼ）8名、自閉症・情緒障害学級（オレンジ）2名の計10名在籍している。普段の授業において、支援学級では自分の考えを話したりできるが、交流学級では自分を抑えてしまう生徒も多い。また、偏食や食べる量の調節、準備や片付け方の指導が必要な生徒もいる。

実 践 名	『甲州味噌をつくろう！』
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の食生活について関心を持つ。 ・自分の考えを発表する，協力して調理を行うなど主体的に活動する。
目標指標と数値	<p>事前アンケート項目（抜粋）</p> <p>「食べもののことを知ることや，料理をすることは好きですか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はい 60% → 80%を目標とする。 （理由：知らない料理があって勉強になるから，自分の自信になるから） ・いいえ（理由：自分で作れなかったから，料理をするのが苦手だから）
実施予定日 ・実施予定期間	<ul style="list-style-type: none"> ・味噌作り事前授業：令和元年6月7日（金）栄養教諭「みそについて知ろう！」 ・味噌作り実習：令和元年6月13日（木）外部講師「甲州味噌づくり」 ・大豆栽培：5月より ・給食指導：年間を通じて
対 象	特別支援学級（知的障害）（自閉症・情緒障害）2学級
指導場面	自立活動，給食時間
指 導 者	特別支援学級担任，特別支援学級支援員，外部講師，栄養教諭
具 体 的 な 内 容	
<p>○自立活動『甲州味噌をつくろう！』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級の農園にて枝豆栽培をおこなう。 ・普段からよく口にしている「味噌」について学び，自分たちのオリジナルの味噌を使って家庭科の調理実習をおこなう。（仕上がった味噌は，交流学年の調理実習，給食でも使用予定） ・食に関する年間指導計画に沿って授業計画と実践を行なう。 ・事前アンケートで生徒の実態を把握する。 <p>○給食時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流学級の担当職員や栄養教諭の巡回指導を行なう。 	
評価方法	事前事後のアンケート結果の比較

(作成者名 守屋愛子

校務分掌等 栄養教諭)

令和元年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	蕪崎市立蕪崎西中学校	校 長 名	秋澤 英俊
-------	------------	-------	-------

実 践 名	『甲州味噌をつくろう!』
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の食生活について関心を持つ。 ・自分の考えを発表する, 協力して調理を行うなど主体的に活動する。
目標指標・数値	<p>事前アンケート項目 (抜粋)</p> <p>「食べもののことを知ることや, 料理をすることは好きですか?」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はい 60% → 80%を目標とする。
実践後の数値 (評価方法)	<p>事後, 上記と同じアンケートを実施 (抜粋)</p> <p>「食べもののことを知ることや, 料理をすることは好きですか?」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はい 60% → 80%に増加した。 <p>(理由: ・料理をすることにより, 将来のためになるから。・料理をすると家族が喜ぶから。・楽しいから。)</p>
実施日 ・実施期間	<ul style="list-style-type: none"> ・事前授業: 令和元年6月7日 (金) 栄養教諭「みそについて知ろう!」 ・味噌作り実習: 令和元年6月13日 (木) 外部講師「甲州味噌づくり」 ・味噌蔵見学: 甲府市 五味醤油 令和元年8月23日 (金) ・大豆栽培: 5月より ・味噌を使った豚汁・ほうとうづくり (12月~1月) ・給食指導: 年間を通じて
対 象	特別支援学級 (知的障害) (自閉症・情緒障害) 2学級10名
指導場面	自立活動, 給食時間
指 導 者	特別支援学級担任, 特別支援学級支援員, 外部講師 (株式会社五味醤油, 蕪崎市食生活改善推進委員), 栄養教諭
具 体 的 な 内 容	
<p>○自立活動『甲州味噌をつくろう!』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・味噌について事前学習「みそについて知ろう!」(味噌ができるまで・材料・地域性, 味比べなど)を行い, その後外部講師による甲州味噌づくり体験を行った。仕込んだ味噌は, 麴を提供してもらった市内の井筒屋醤油さんの蔵で保管し, 半年間醸造した。 ・5月より味噌の材料である大豆栽培や大豆の加工品についての学習を行った。 ・仕上がった自分たちのオリジナルの味噌を使って, 調理実習 (豚汁) を行った。仕上がった味噌は, 交流学年の家庭科調理実習でも使用し, 蕪崎市食生活改善推進委員の方々を講師としてほうとうづくりを行った。味噌は1月~2月の学校給食でも使用し, 給食放送で告知した。 	
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートでは料理や食への興味関心が低かったが, 栽培活動や味噌づくりを通して食への関心を高めることができた。また, 自分たちの手作りした味噌を全校みんなで食べることで自己肯定感や帰属意識に繋がった。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度初めて行った取り組みであるため, 今後も継続して実践できるように来年度以降年間計画に入れ, 系統的・継続的に進められるよう整備をする必要がある。

令和元年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	甲斐市立玉幡小学校	校 長 名	丸茂 和也
-------	-----------	-------	-------

児童生徒の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事のマナーが守れていない。(箸を正しく持つ。お皿を持って食べる。など) ・ 食に関する興味・関心が低い。 ・ 残食は全体的に少ないが、野菜や魚などが主に残ってしまう。 ・ 好き嫌いをせずに食べる児童がいる一方、苦手なもの(特に野菜)は口にしないで基準量の半分以下に減らしてしまう児童もいる。 ・ 食生活を考えて、バランスよく食べるということの大切さをあまり意識していない。

実 践 名	地元の特産品である「やはたいも」を育てて食べよう。
目 標	八幡芋の栽培・収穫体験、調理を通して、地元の特産品や野菜に対する興味・関心を高める。 八幡芋をはじめとする野菜の栄養素などを知り、野菜を食べると体にどんな良いことがあるのか理解し、苦手な野菜を少しずつでも食べようと意識をもてるようにする。
目標指標と数値	給食ではじめに盛り付けられた野菜を残さず食べることができる児童を増やす。(90%以上を目指す。)
実施予定日 ・実施予定期間	令和元年5月～10月
対 象	第3学年 58名
指導場面	総合的な学習の時間 給食の時間
指 導 者	学級担任 栄養職員
具 体 的 な 内 容	
<p>【総合的な学習の時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の特産品である八幡芋を育て、収穫する。 ・ 八幡芋を育てている名人にも協力していただき、地元の特産品について学習する。 ・ 収穫した八幡芋を調理して、食べる。 (自分たちで育てた八幡芋、名人が育てた八幡芋、さといもの3種類を食べ比べする。) ・ 栄養職員から八幡芋をはじめとする野菜の栄養素などについて指導をうける。 <p>【給食の時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日の給食には、地元の特産品や旬の野菜などさまざまな種類の食材が使われていることを知る。 ・ バランスのとれた食事や食事のマナーについて学ぶ。 	
評価方法	授業のワークシートの見取り アンケートの実施

(作成者名 時田 幸子

校務分掌等 給食主任)

令和元年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	甲斐市立 玉幡小学校	校 長 名	丸茂 和也
-------	------------	-------	-------

実 践 名	地元の特産品である「やはたいも」を育てて食べよう。
目 標	・八幡芋の栽培・収穫体験，調理を通して，地元の特産品や野菜に対する興味・関心を高める。 ・八幡芋をはじめとする野菜の栄養素などを知り，野菜を食べると体にどんな良いことがあるのか理解し，苦手な野菜を少しずつでも食べようと意識をもてるようにする。
目標指標・数値	給食ではじめに盛り付けられた野菜を残さず食べることができる児童を増やす。(90%以上を目指す。)
実践後の数値 (評価方法)	・給食の完食率はほぼ100%が続いている。 ・はじめに盛り付けられた野菜を減らすことなく食べる児童が増えた。
実施日 ・実施期間	令和元年5月～11月
対 象	第3学年 58名
指導場面	総合的な学習の時間 給食の時間
指 導 者	学級担任 栄養職員

具 体 的 な 内 容

【総合的な学習の時間】

- ・地元の特産品である八幡芋を育て，収穫した。
- ・自分たちで収穫した八幡芋を給食の食材として使用してもらった。
- ・八幡芋を育てている名人にも協力していただき，地元の特産品について学習した。
(自分たちの畑での指導，名人の畑と選別所の見学など)
- ・収穫した八幡芋を調理して，食べ比べを行った。
(自分たちで育てた八幡芋，名人が育てた八幡芋，スーパーで売られているさといもの3種類の食べ比べを行った。)
- ・栄養職員から，八幡芋をはじめとする野菜の栄養素などについて指導を行った。

【給食の時間】

- ・毎日の給食には，地元の特産品や旬の野菜などさまざまな種類の食材が使われていることを給食委員会が放送したり，栄養職員が教室を回って食材に関する話をしたりした。
- ・バランスのとれた食事や食事のマナーについて担任や栄養職員が指導を行った。

<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・八幡芋の栽培・収穫体験，調理を通して，地元の特産品や野菜に対する興味・関心を高めることができた。 ・自分たちで作った八幡芋を給食の食材として使用してもらい，子どもたちはとても喜んでいて。八幡芋はみそ汁の具として使用してもらったが，その後の給食の食材にも興味をもつようになった。 ・八幡芋をはじめとする野菜の栄養素などを栄養職員から教わり，野菜を食べると体にどんな良いことがあるのか理解し，苦手な野菜を少しずつでも食べようとする意識をもてるようになった。また，家族にも野菜のことについて話をしたりすることが増えた。 ・八幡芋づくりの名人（専門家）に直接指導をしていただくことで，地元の特産品への関心が高まり，食べ物への感謝や敬愛の心を育むことができた。 ・給食の完食率がほぼ100%になり，児童が健康で元気に過ごすことができた。
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食の大切さを今後も継続して伝えていく。 ・食事のマナーが守れていない児童がまだ多くいるので，今後も担任や栄養職員が指導を行っていく。

（作成者名 時田 幸子 校務分掌等 給食主任 ）

(様式1 計画書)

令和元年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	南アルプス市立白根巨摩中学校	校 長 名	芦澤 秀幸
-------	----------------	-------	-------

児童生徒の課題

近年、核家族化が進み共働き世帯も年々増加傾向にあると共に、部活動、習い事、塾通いにより家族が揃って食卓を囲む時間も減少している。このことから伝統文化の継承や食事のマナーを学ぶ場も減り、食文化の1つである正しい箸の持ち方が定着していない生徒も多々いる。

実 践 名	感謝の気持ちを育てる。 食事のマナーを考える。
目 標	「食」に対する感謝の気持ちを育て、行動で示せるようにする。
目標指標と数値	マナーを守って食事が摂れる生徒の割合を80%以上にする。
実施予定日 ・実施予定期間	8月下旬～9月上旬
対 象	第2学年(99名)
指導場面	道徳・給食指導・学級活動
指 導 者	給食主任・学級担任・給食委員
具 体 的 な 内 容	
○事前アンケート(7月) ・食事の摂り方 ・マナーに関する事 ○内容 ・道徳の教科書『和食』の良さって何だろう。』を用いて、『和食』を通じて日本の文化として日本人がこれまで大切にしてきたもの、これから守っていききたいこと、後世や海外の方に伝えていききたいことを考える。 ・準備、片づけ、食事中において作ってくれた人の思いを感じられるような行動ができるよう随所で指導する。 ・給食委員を通じて、食事のマナー(箸の持ち方も含む)に関する呼びかけや掲示物を作成する。 ○事後アンケート(1月) ・食事の摂り方 ・マナーに関する事	
評価方法	・授業のワークシート ・給食時の様子

(作成者名 古屋 香純

校務分掌等 給食主任)

令和元年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	南アルプス市立白根巨摩中学校	校 長 名	芦澤 秀幸
-------	----------------	-------	-------

実 践 名	感謝の気持ちを育てる。 食事のマナーを考える。
目 標	「食」に対する感謝の気持ちを育て、行動で示せるようにする。
目標指標・数値	マナーを守って食事が摂れる生徒の割合を80%以上にする。
実践後の数値 (評価方法)	アンケート全10項目の中4項目(①箸の使い方②食事前後の挨拶③食器の並べ方④感謝の気持ちを持って片づけられたか)において身に付いている生徒が60%ほどだったが、事後アンケートではそれぞれ75%に達していた。
実施日・実施期間	通年
対 象	第2学年(99名)
指導場面	道徳・給食指導・学級活動
指 導 者	給食主任・学級担任・給食委員

具 体 的 な 内 容

○事前アンケート(7月)

- ・食事の摂り方
- ・マナーに関する事

○取組内容

- ・道徳の教科書『和食』の良さって何だろう。」「郷土の魅力にふれて」を用いて、和食や郷土食から日本の文化として日本人がこれまで大切にしてきたもの、これから守っていききたいこと、後世や海外の方に伝えていきたいことを考えた。
- ・準備、片づけ、食事中において作ってくれた人の思いを感じられるような行動ができるよう随所で指導する。片づけの際に食器やおぼんなどに食べかすが残っていないか、向きは揃っているかなどを給食委員が中心となって確認した。
- ・給食委員が給食だよりなどを用いて食事のマナー(箸の持ち方も含む)に関する呼びかけを行った。
- ・寒い時期には残乳率が高くなるため牛乳の栄養価の高さや食品ロスに触れ、安易に残すことがないようポスターを作成し呼びかけを行った。

(予定)

- ・年度末に給食センターの方々へ向けたメッセージを書き、感謝の気持ちを伝える。

○事後アンケート(1月)

- ・食事の摂り方
- ・マナーに関する事

成 果	事前アンケートと事後アンケートを比較すると、マナーに関する項目においてそれぞれ10%以上の向上が見られた。教員だけでなく給食委員の生徒が声をかけたことによって片づけの様子や着衣の徹底、残乳率に変化が見られた。
今後の課題	アンケート結果から部活動の朝練習や習い事等が起因し家族と一緒に食事を摂らない生徒が多く、家庭における食育を行う環境が不十分であり、肥満・痩身傾向の2極化が見られる。今年度は着衣の徹底や挨拶等マナーだけでなく、残乳率が高かったことから主に食品ロスや牛乳の栄養価について生徒へ発信を行ったが、今後は好き嫌いを減らし、食の選択能力の向上を図りたい。

(作成者名 古屋香純 校務分掌等 給食主任)

令和元年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	甲府市立貢川小学校	校 長 名	石田 浩一
-------	-----------	-------	-------

児童生徒の課題

昨年度の給食アンケートの結果によると、朝食を毎日食べると答えた児童が、6月は85.7%、12月は81.1%とどちらも90%を満たなかった。学校教育目標の健やかな体を育成していくためには、「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的生活習慣の確立は重要である。アンケートの結果から子どもたちは朝食の重要性は理解しているが、毎日必ず食べるという行動まで結びついていないことがわかった。朝食の摂取は、家庭環境の影響も大きいので、家庭とどのように連携していくか課題である。

実 践 名	朝食を食べよう ～子どもたちが主体的に取り組む食育～
目 標	朝食を食べて、基本的生活習慣の一步を踏み出そう。
目標指標と数値	① 朝食の摂取率 81.1%→90%以上 (全校) ② 家庭への啓蒙のおたより「早寝・早起き・朝ごはん」発行 年0回→年2回以上 ③ 朝食を作ったことがある児童を増やす (4, 5, 6年生)
実施予定日 ・実施予定期間	1学期～2学期
対 象	全校児童
指導場面	給食時間、学級活動、家庭科、委員会活動
指 導 者	学級担任、栄養教諭
具 体 的 な 内 容	
<p>① 朝食の大切さを知り、規則正しい生活リズムを作ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> 給食委員会による紙芝居 (ビデオ放送) を見て、朝食を食べる大切さや、朝食を食べると頭や体が活発になり規則正しい生活リズムを身につけられることを学ぶ。 運動会練習期間中、規則正しい生活リズムを送れているかチェックカードでチェックに取り組む。(早寝・朝食について) 「早寝・早起き・朝ごはん」をテーマにした家庭へのお便りを発行する。夏休みに向けて、簡単に作れる朝食メニューのレシピを紹介する。 <p>② 自分と家族の朝食を作ってみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏休み期間中、朝食メニューのレシピの中から作ってみようと思うレシピに挑戦をする。 	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 給食アンケート 健康チェックカード (運動会期間中) 学校評価

(作成者名 萩原 香織 校務分掌等 栄養教諭、食育主任)

令和元年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	甲府市立貢川小学校	校 長 名	石田浩一
-------	-----------	-------	------

実 践 名	朝食を食べよう～子どもたちが主体的に取り組む食育～
目 標	朝食を食べて、基本的な生活習慣の一步を踏み出そう。
目標指標・数値	① 朝食の摂取率 81.1%→90%以上 (全校) ② 家庭への啓蒙のおたより「早寝・早起き・朝ごはん」発行 年0回→年2回以上 ③ 朝食を作ったことがある児童を増やす (4, 5, 6年生)
実践後の数値 (評価方法)	① 2月に実施した調査での朝食の摂取率 85.1% (全校) ② 家庭への啓蒙のおたより (レシピ集も含む) 年3回発行 ③ 朝食を自分で作ったことがあると答えた児童 (4, 5, 6年生) 66.6% (6月実施) →91.4% (2月実施)
実施日・実施期間	1学期～3学期
対 象	全校児童
指導場面	給食時間、学級活動、家庭科、委員会活動
指 導 者	学級担任、給食主任、栄養教諭
具 体 的 な 内 容	
<p>① 朝食の大切さを知り、規則正しい生活リズムを作ろう</p> <p>6月：給食委員会による紙芝居 (ビデオ放送) を見て、朝食を食べることの大切さや、朝食を食べると頭や体が活発になり、1日の生活リズムが規則正しくなることを学習した。</p> <p>9月：運動会練習期間中、規則正しい生活リズム (早寝・早起き・朝ごはん) についてのチェックカードに取り組んだ。</p> <p>6月、7月、12月：「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的な生活リズムの確立をテーマにしたお便り1回、朝ごはん簡単レシピ集を2回発行し、家庭へ啓蒙した。</p> <p>② 自分と家族の朝食を作ってみよう</p> <p>夏休みと冬休み期間中：高学年 (4, 5, 6年生) は、長期休業中の自主課題として、家族に喜んでもらえる朝ごはん作りに取り組んだ。朝食作りの苦勞や、当たり前のように朝ごはんを作ってくれている親への感謝の気持ちを持てるようになった児童が多くいた。さらに、調理の楽しさや家族に食べてもらうことへの喜びを感じ、また作りたいという感想が多くあった。</p>	
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・今年全校で「朝食」のみの取組としたため、全教職員の意識が高まり、発達段階に応じた効果的な指導をすることができた。 ・目標には達成しなかったが、朝食の摂取率を上げることができた。 ・年に2回の朝食作りという体験を通して、調理の楽しさを実感し、進んで朝食を作って食べようとする児童が増えた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・指導直後は意識も高まるが、それを継続していくための工夫が必要だ。 ・全校一斉指導の内容は低学年の児童にとって少し難しい内容であった。 ・朝食の摂取は家庭環境の影響も大きいので、今後も子どもの自主性を高めるとともに、家庭とどのように連携をしていくか計画していくべきだ。

(様式1 計画書)

令和元年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	笛吹市立芦川小学校	校 長 名	進藤 雅一
-------	-----------	-------	-------

児童生徒の課題

本校児童は、2年生2名、3年生2名、5年生1名、計5名である。給食は自校方式で毎日温かくともおいしい給食をいただくことができている。5名とも給食に関しては、好き嫌いなく食事ができている。また、地域の特色ある食材であるコンニャクや高地野菜を学校給食に積極的に取り入れたり、児童自らが手作りしたコンニャクを学習発表会（ほかほか祭）で振る舞うといった食文化にも触れたりしている。

だが、「心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身に付ける」という食に関する指導の目標の観点からは、次のような課題が挙げられる。

- ・2名に肥満傾向があり、偏食がある。
- ・5名に地域の食文化について関心が薄い傾向が見られる。

実 践 名	心も体もほかほか大作戦
目 標	心と体の成長と健康の増進のために望ましい栄養や食事のとり方を意識させ、実践させる。
目標指標と数値	上記課題の人数を減少させる。
実施予定日 ・実施予定期間	令和元年9月2日（月）～令和2年2月7日（金）
対 象	全校児童5名とその保護者
指導場面	・給食の時間・学級活動・学校行事（ほかほか祭） ・総合的な学習の時間 ・生活科
指 導 者	全教職員
具 体 的 な 内 容	
【給食の時間】	・学校栄養職員による栄養・食のマナー・食材・食文化等の話 ・教員による偏りのない食事の指導
【学級活動】	・健康によい食事のとり方の指導による望ましい食習慣の形成
【ほかほか祭】	・児童が育て収穫した芦川特産コンニャクを使った手作りコンニャクの調理と食文化への興味関心の喚起
【総合的な学習の時間・生活科】	・コンニャク、サツマイモ、ニンジン、キャベツ、ゴーヤ等の栽培
【日曜参観による給食試食会】	・日曜参観による保護者の給食試食会の実施
評価方法	・児童の日常の見取り ・意識調査の結果 ・給食試食会アンケート結果

(作成者名 石原 三正 校務分掌等 教頭)

令和元年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	笛吹市立芦川小学校	校 長 名	進藤 雅一
-------	-----------	-------	-------

実 践 名	心も体もほかほか大作戦
目 標	心と体の成長と健康の増進のために望ましい栄養や食事のとり方を意識させ、実践させる。
目標指標・数値	課題の人数を減少させる。 ・ 2名に肥満傾向があり、偏食が見られる。 ・ 5名に地域の食文化について意識が薄い傾向が見られる。
実践後の数値 (評価方法)	職員の指導により、2名の偏食傾向は緩和されつつあるとともに、地域の食文化についての意識高揚は図られた。
実施日・実施期間	令和元年9月2日(月)～令和2年2月7日(金)
対 象	全校児童5名とその保護者
指導場面	・ 給食の時間・学級活動・学校行事(ほかほか祭) ・ 総合的な学習の時間・生活科
指 導 者	全教職員
具 体 的 な 内 容	
【給食の時間】	・ 学校栄養職員による、食品や食材の栄養、食文化にまつわるエピソード等についてほぼ毎日話をしていただき、地域の食文化も含め意識を高めることができた。これと併せて、教員による偏りのない食事の指導を行った。
【学級活動】	・ 健康によい食事の指導による、望ましい食習慣の形成について指導した。
【ほかほか祭】	・ 児童が育て収穫した芦川特産コンニャクを使った手作りコンニャクを調理するとともに、地域の方々に食べていただき地域の食文化への興味関心を実感もって高めることができた。
【総合的な学習の時間・生活科】	・ 学校農園で、コンニャク、サツマイモ、ニンジン、キャベツ、ゴーヤ等を栽培し、地元食材について理解を深めた。
【日曜参観による給食試食会】	・ 日曜参観で保護者、学校評議員等を招き、給食試食会を実施した。食に対する正しい理解と望ましい食習慣について意識を高めることができた。
成 果	これまで本校が日常的に実践してきたことを基に、今回の実践も積み重ねることができ、児童にとっても職員にとっても充実した内容となった。特に、実際に栽培・収穫・調理といった価値のある実感を伴った体験を通して実践できたことで、地域の食文化や食についての意識を高めることができた。
今後の課題	今後もこれまでの実践をベースにして積み重ねていきたいと考える。また、肥満傾向についてはまだ成果を上げるには取組期間が短いので、今後も保護者の協力を得ながら取組んでいきたい。

(様式1 計画書)

令和元年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学校名	早川町立早川南小学校	校長名	坂野 修一
-----	------------	-----	-------

児童生徒の課題

- ・学校全体の給食の残食はほとんどないが、偏食や少食の児童が数名いる。
- ・5月に実施したおやつアンケートの結果より、毎日食べると答えた児童は25% (5人)、週2～4日食べると答えた児童は75% (15人) だった。おやつの内容には偏りがあり、下校後から夕食までの間に食べる児童が多い。

実践名	「上手なおやつのとりにかたについて、考えよう」
目標	・おやつ役割を知り、上手におやつ(間食)をとろうとする態度を育てる。 ・おやつに関する実践を通して、家庭と連携し、生活改善につなげる。
目標指標と数値	・栄養教諭による給食指導の回数を増やす。(年間6回→年間12回) ・おやつに関するテーマの一斉指導の機会を作る。(委員会との連携)
実施予定日 ・実施予定期間	令和元年 6月18日(火)～夏季休業
対象	全校児童20名
指導場面	全校集会(朝活動)、委員会活動、学級活動、給食の時間(給食指導)
指導者	担任、養護教諭(給食主任)、栄養教諭
具 体 的 な 内 容	
○保健・環境委員会による全校集会 ・事前アンケートを実施(おやつアンケート) ・「上手なおやつのとりにかたについて考えよう」のテーマのもと、劇をしながら自分の生活を振り返るきっかけをつくる。その中でおやつ役割を説明し、本校のおやつのとりにかたについての実態を示しながら「量を決めて食べる」、「組み合わせを考えて食べる」ことを伝える。	
○学級活動(高学年) ・今までの自分の生活を振り返る。(いつ・どのくらいの量のおやつを食べていたか) ・適切なおやつ量・時間・内容を学習し、自分自身の生活の実践につなげる。(事後の取り組み)	
○栄養教諭による給食指導 【食に関する年間指導計画に基づいた指導】を実施する。 ・7月「健康によい食生活」 1・2年…上手なおやつのとりにかた 3・4年…夏の飲み物とおやつ 5・6年…おやつを選び方(量・時間等の内容)	
○家庭との連携 ・7月にある給食試食会で、栄養教諭から「おやつのとりにかた」について講演してもらう。 ・給食便りや保健便り等を通して、望ましいおやつ生活習慣について発信する。	
評価方法	・授業実践(授業のワークシートからの見取り) ・事前、事後アンケート結果、全校集会後や給食試食会講演後の感想

(作成者名 清水 祐子 校務分掌等 養護教諭・給食主任)

令和元年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	早川町立早川南小学校	校 長 名	坂野 修一
-------	------------	-------	-------

実 践 名	「上手なおやつのとりにかたについて、考えよう」
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・おやつ役割を知り、上手におやつ（間食）をとろうとする態度を育てる。 ・おやつに関する実践を通して、家庭と連携し、生活改善につなげる。
目標指標・数値	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭による給食指導の回数を増やす。（年間6回→年間12回） ・おやつに関するテーマの一斉指導の機会を作る。（委員会との連携）
実践後の数値 （評価方法）	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭による給食指導を毎月行い、夏休み前におやつのとりにかたについての内容で指導することができた。 ・全校集会の場で委員会の児童が発表し、おやつ役割や食べる量、時間などを学ぶ機会を作ることができた。
実施日 ・実施期間	全校集会：6月18日（火）朝活動、学級活動：6月20日（木）6校時 給食指導：7月、給食講話：7月 給食試食会后
対 象	全校児童23名、保護者
指導場面	全校集会（朝活動）、委員会活動、学級活動、給食の時間（給食指導）
指 導 者	担任、養護教諭（給食主任）、栄養教諭
具 体 的 な 内 容	
<p>○保健・環境委員会による全校集会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートを実施（おやつアンケート）→おやつ量や時間帯等を知るために行った。 ・「上手なおやつのとりにかたについて考えよう」のテーマのもと、おやつ役割を説明した。自分の生活を振り返るきっかけになり、「量を決めて食べる」、「組み合わせを考えて食べる」ことを学んだ。 <p>○学級活動（6年生）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの自分の生活を振り返る。（いつ・どのくらいのおやつを食べていたか）→全校集会後 ・自分自身の生活の実践につなげるため、学習後の1週間で自分の生活チェックを行った。 <p>○栄養教諭による給食指導 【食に関する年間指導計画に基づいた指導】を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月「健康によい食生活」・・・おやつ選び方について <p>○家庭との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月にある給食試食会で、栄養教諭から「おやつのとりにかた」について講演してもらった。 ・給食便りや保健便り等を通して、望ましいおやつ生活習慣について発信した。 	
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・おやつ役割を知り、自分に合ったおやつのとりにかたを知ることができた。 ・栄養教諭との連携を図り、家庭へ直接伝える機会を作った。改めて考えるきっかけになり保護者の関心も高まったと、参加後の感想から読み取ることができた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・指導実践後は子どもたちの関心を高めることができたが、継続的に指導することができなかった。継続的な指導と家庭への連携をさらに充実させていきたい。 ・朝食欠食等の課題があるので、児童の実態に応じた指導を積み重ねていく。

（作成者名 清水 祐子 校務分掌等 養護教諭・給食主任 ）

令和元年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	富士吉田市立下吉田東小学校	校 長 名	堀内 一義
-------	---------------	-------	-------

児童生徒の課題

「〇心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身に付ける。」に関連すると思われるが、学級担任が気になっていることで一番多かったのが児童の好き嫌いであった。また、昨年度末に毎朝の健康観察のうちに調べている朝食の摂取について調べたところ、朝食を毎日食べてくる児童は93.3%だった。同じ児童が毎回食べてこないというわけではなかったが100%でないことが課題と思われる。

実 践 名	「給食クイズ」「給食集会」「給食マナー週間」 朝食をメインにした食育掲示 親子おやつ作り教室（PTA事業部）
目 標	心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身に付ける。
目標指標と数値	朝食の欠食率を改善する（摂取率95%）。 好き嫌いをなくそうとする意識を持たせる。
実施予定日 ・実施予定期間	「給食クイズ」・・・各学期1回 「給食集会」・・・6月 「給食マナー週間」・・・ 2学期 親子おやつ作り教室・・・夏休み 掲示・・・通年
対 象	全校児童 対象親子
指導場面	給食時 集会
指 導 者	・給食委員会 ・食育担当 ・富士吉田市健康長寿課
具 体 的 な 内 容	
<p>「給食クイズ」・・・その日の給食の内容から食材や栄養についてのクイズを出す。</p> <p>「給食委員会」・・・朝食についての寸劇を全校集会で行う。</p> <p>「給食マナー週間」・・・いくつかのめあての中から自分に合っためあてを設定し自己チェックする。</p> <p>「親子おやつ作り教室」・・・毎年夏休みに行っているPTA活動のひとつ。富士吉田市健康長寿課の栄養士さんに親子で作ることができるおやつを紹介していただく。</p> <p>「食育掲示」・・・図書館にある食育関係の本の紹介もかねて、朝食についての掲示を行う。</p>	
評価方法	健康観察を通じた教職員の見取りと懇談時等での保護者への聞き取り 年度末の朝食摂取率の集計

令和元年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	富士吉田市立下吉田東小学校	校 長 名	堀内 一義
実 践 名	「給食クイズ」「給食集会」「給食マナー週間」 朝食をメインにした食育掲示 親子おやつ作り教室 (PTA事業部)		
目 標	心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身に付ける。		
目標指標・数値	朝食の欠食率を改善する (摂取率 95%)。 好き嫌いをなくそうとする意識を持たせる。		
実践後の数値 (評価方法)	朝食摂取率 94.6% (毎朝の健康観察) 好き嫌いについては、給食時に一口でもがんばろうとしている児童が見られた。(担任による観察)		
実施日 ・実施期間	「給食クイズ」・・・各学期1回 「給食集会」・・・6/10 「給食マナー週間」・・・10/7～11 親子おやつ作り教室・・・8/2 掲示・・・通年		
対 象	全校児童 対象親子		
指導場面	給食時 集会 親子おやつ作り教室 学校給食週間		
指 導 者	・給食委員会 ・食育担当 ・富士吉田市健康長寿課		
具 体 的 な 内 容			
給食クイズ・・・月に2回、その日の給食のメニューから出題。 給食集会・・・朝食の大切さについて給食委員会で脚本を考え、市のキャラクターである「うどんぶりちゃん」を招聘し寸劇を行った。 給食マナー週間・・・自分でめあてをたてて取り組んだ。マナーについて振り返った。 親子おやつ作り教室・・・トマトゼリー、トルティーヤ 食育掲示・・・朝食、まごわやさしい、学校給食週間など。			
成 果	「給食クイズ」で取り上げたものに興味を示し、一口食べてみようとする姿が見られた。「給食マナー週間」では自分でめあてをたてることで無理なく取り組み、振り返りの良い機会となった。「親子おやつ作り教室」では、朝食にもなるようなメニューを教えていただき、親子で考えることができた。現時点で朝食の摂取率は94.6%で、昨年度より1.3%あがった。		
今後の課題	朝食の目標摂取率は95%だったので、今後も引き続き指導をしていくが、同じ児童が複数回欠食していることもあったので、今以上に家庭への啓蒙が必要だと思われる。		

(作成者名 宮下 由美

校務分掌等 食育・給食)

令和元年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	富士吉田市立吉田中学校	校 長 名	渡辺 賢一
-------	-------------	-------	-------

児童生徒の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・給食の残量が多い傾向にある（牛乳も含む）。 ・好き嫌いがあり、嫌いなものは食べないことが多い。 ・「食」に関する知識があまりない。
--

実 践 名	①食育を学ぼう！～「食」を知ろう 「食」を考えよう～ ②給食残量「0」を目指そう！ ③10分以内を目指して給食準備タイムチェック！
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・食について学び、関心をもち、栄養のバランスを考えて食べたり、望ましい食事のとり方を実践できたりするようにする。 ・食に関わる人々や食材に感謝する心を育てる。 ・給食活動を円滑に行い、仲間と協力することの大切さを学ぶとともに、食事をする時間を確保し、残食を減らしていく。
目標指標と数値	<ul style="list-style-type: none"> ・給食残量を各クラス「0」に近づけていく ・牛乳残量本数を1桁にする ・10分以内の給食準備の定着
実施予定日 ・実施予定期間	<ul style="list-style-type: none"> ①・毎月のはじめに食育指導 <ul style="list-style-type: none"> ・毎月数回特別メニューを中心とした献立内容紹介 ②・毎日呼びかけ活動 <ul style="list-style-type: none"> 特に毎月の10日・20日・30日は「残食0デー」を推進 ③各学期1回（6月・11月・1月）強化週間の実施
対 象	全学年
指導場面	①②給食の時間・学級活動の時間 ③給食の時間
指 導 者	給食担当教諭・各学級担任・学年職員・給食委員

具 体 的 な 内 容

- ①・毎月「食に関する指導」月間目標にしたがって、食育の資料を各学級で給食委員が読み、食についての学びを深めるとともに、目標をもって給食活動（または食事）に臨めるようにする。
 - ・地産地消の献立や月間目標に関連する献立など、特別な献立の日を中心に、料理や食材について各学級で給食委員が紹介する。
- ②・各学級で毎日片付け前に給食委員が食缶をチェックし、残食があるようだったら呼びかけをして、少しでも残食が減るようにする。
 - ・毎月10日・20日・30日を「残食0デー」とし、「残食0」を目指して実践する。
 - ・牛乳残量本数を各学級で給食委員がチェックをし、学校全体で残量総本数を記録する。その結果を委員会で共有し、各学級での指導につなげる。
- ③・各学級で4校時の授業が終わってから、「いただきます」のあいさつまでの時間を計測し、準備時間10分以内を目指して、協力して準備を行う。その結果を全校掲示し、全校で高い意識をもって食事時間の確保に努める。

評価方法	①②残量の変化を各学級で確認。牛乳の残量本数を確認する。 ③給食準備にかかった時間をチェックし、10分以内にできているか確認する。（安全性や衛生面も重視した上で）
------	--

(作成者名 山中 菜都子 校務分掌等 給食主任)

令和元年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	富士吉田市立吉田学校	校 長 名	渡辺 賢一
実 践 名	①食育を学ぼう！～「食」を知ろう「食」を考えよう～ ②給食残量「0」を目指そう！ ③10分以内を目指して給食準備タイムチェック！		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・食について学び、関心をもち、栄養のバランスを考えて食べたり、望ましい食事のとり方を実践できたりするようにする。 ・食に関わる人々や食材に感謝する心を育てる。 ・給食活動を円滑に行い、仲間と協力することの大切さを学ぶとともに、食事をする時間を確保し、残食を減らしていく。 		
目標指標・数値	<ul style="list-style-type: none"> ・給食残量を各クラス「0」に近づけていく ・牛乳残量本数を1桁にする ・10分以内の給食準備の定着 		
実践後の数値 (評価方法)	<p>①アンケート結果より ○→昨年度より改善した △→変わらない・改善しなかった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝ごはんの大切さを理解し、毎日朝ごはんを食べた ○92.2% △7.8% ・6つの食品群を規則正しくバランスよく食べた ○37.4% △62.6% ・よく噛んで食べるよう心がけた ○58% △42% ・好き嫌いなく苦手なものでも食べるよう努力した ○48% △52% ・おやつは時間や量を決めて食べるようにした ○45.8% △54.2% <p>②牛乳残量本数(約1カ月～1カ月半ごと調査) 1学期：平均24本 → 2学期：平均18.5本→23本→41.2本 → 3学期：44本→36本</p> <p>③1週間タイムチェック取り組み結果(15クラス10分以内達成割合) 6月：84% →11月：64% →1月：87%</p>		
実施日 ・実施期間	<p>①・毎月のはじめに各クラスでの食育指導 ・毎月数回特別メニューを中心とした献立内容紹介</p> <p>②・毎日の呼びかけ活動：特に毎月10日・20日・30日は「残食0デー」を推進 ・牛乳残量本数の記録・分析(5月下旬から開始)提示(3学期開始)</p> <p>③各学期1回(6月・11月・1月)給食タイムチェック強化週間の実施</p>		
対 象	全学年		
指導場面	①②給食の時間・学級活動の時間 ③給食の時間		
指 導 者	給食担当教諭・各学級担任・学年職員・給食委員		
具 体 的 な 内 容			
<p>①・毎月「食に関する指導」月間目標にしたがって、食育の資料を各学級で給食委員が読み、食についての学びを深めるとともに、目標をもって給食活動(または食事)に臨めるようにする。 ・地産地消の献立や月間目標に関連する献立など、特別な献立の日を中心に、料理や食材について各学級で給食委員が紹介する。</p> <p>②・各学級で毎日片付け前に給食委員が食缶をチェックし、残食があるようだったら呼びかけをして、少しでも残食が減るようにする。 ・毎月10日・20日・30日を「残食0デー」とし、「残食0」を目指して実践する。 ・牛乳残量本数を各学級で給食委員がチェックをし、学校全体で残量総本数を記録する。その結果を委員会で共有し、各学級での指導につなげる。</p> <p>③・各学級で4校時の授業が終わってから、「いただきます」のあいさつまでの時間を計測し、準備時間10分以内を目指して、協力して準備を行う。その結果を全校掲示し、全校で高い意識をもって食事時間の確保に努める。</p>			
成 果	<p>①2月にとったアンケートの5つの質問に対する結果から、ほとんどの項目が半数近く昨年度より改善したという結果が得られた。特に朝食に関しては90%を超える結果になり、保健指導と併せて指導したことが改善につながったと考えられる。</p> <p>②給食委員が残量状況を把握することで改善への意識を高めることができた。呼びかけや現状の提示などで残量を減らすことに一時的な効果が見られた。</p> <p>③1週間のタイムチェック活動によって協力して準備することの意識が高まり、週の終わりにかけて目標を達成するクラスが増えていった。活動後も意識を保ったまま活動できている様子が多く見られた。各学期のはじめに行うことがより効果的だった。</p>		
今後の課題	<p>①食は生活の中にあるものなので、給食だけでなく、保健や体育などの指導の中でも併せて教育していくことで、生徒の意識に根付いていくものであると考える。また、学校だけでなく、家庭とも連携していくなどして多面的な指導が必要である。</p> <p>②活動の効果が一時的であることから、継続して残食を減らす意識を持ち続けるためには、呼びかけや現状の提示だけでなく、学級と連携して残さない配膳の工夫や、食育と関連づけて道徳的な観点で考えさせるなど、多角的な指導をしていく必要がある。</p> <p>③2学期のように日数が多かったり、行事がたくさんあったりしても、継続して高い意識をもつためには、速さやシステムだけにこだわらない活動への意識づけが必要である。</p>		